

《解説・情報・資料》

愛玩鶏としての日本鶏の成り立ちと熊本県での保存改良の取り組み

松崎 正治

熊本県農業研究センター畜産研究所

はじめに

日本鶏は基をただせば海外より渡来したものである。それが日本では卵および肉を利用する方向には改良されず、江戸時代の中・後期に花開いた日本文化の中で諸大名やその家臣、経済力を備えた町民たちが鶏を愛玩の目的で育種の工夫を凝らし、日本独特の美的感覚による姿・色・声に対する育種改良がなされ、世界に誇る愛玩鶏が成立した。

日本鶏は明治時代に海外流出と西洋種の輸入、第2次世界大戦による食糧難、昭和30年代後半から始まった経済性の優れた外国コマーシャル鶏の輸入と養鶏の專業化、および人口の都市集中と農山村の過疎化等の受難を経て、現在では全国の日本鶏保存団体は150以上を数え(佐竹, 2003)、各地で品評会が開催されるようになった。

1. 鶏の渡来と日本鶏の作出

1) 鶏の渡来

鶏は東南アジアに生息する野鶏がマレー半島で馴化されて、インドと中国の2つの古代文化圏へもたらされたと考えられており、インドでは紀元前3,000年頃、中国では紀元前1,300年頃には既に鶏が家禽として飼養されていたと推定されている(黒田ら, 1987)。

その後インドから西進した鶏はペルシャ、エジプト、地中海沿岸、ヨーロッパからアメリカへ至り卵用種、肉用種、卵肉兼用種または愛玩用種として多様な改良がなされ、特に最近の卵と肉の生産性の改良は驚くほどの進歩を遂げ、最も生産効率の良い動物性蛋白質の供給源として世界中で利用されている。

一方、東進した鶏は揚子江下流域地方から朝鮮半島を経て紀元前200年頃に日本に渡来したと考えられている。その時一番先に渡来した鶏は赤色野鶏によく似た地鶏であり、その後平安時代に小国鶏が渡来し、江戸時代の初期になるとシャモ、チャボ、烏骨鶏が相次いで渡来した。しかし、それらは何れも品種として確立したのではなく、南蛮船や御朱印船の往来時の食糧として各地の港で調達されたものであり、ほとんどが雑種であった

2004年2月5日受付, 2004年3月18日受理

と考えられる(黒田ら, 1987)。

2) 日本鶏の作出

それが江戸時代の中・後期の経済が向上し戦争のない平和な時代の中で閑を得た大名やその家臣、豪商の庇護を得た好学者たちが鶏の多様な変異性に注目して改良に熱中し、西洋よりもたらされた博物学の知識を活かして日本独特の美的感覚による姿、色、声に対する育種改良がなされて日本鶏の品種としての形態が整い、ほぼ現在に近い日本鶏が完成した(黒田ら, 1987)(山中, 1974)。

3) 日本鶏の天然記念物指定

明治時代になると西洋のものをよしとする欧化主義が浸透し、西洋鶏が競って輸入され、それが農村部まで急速に浸透した。それとは反対に日本鶏は手当たり次第に国外に持ち出された。明治中期から大正にかけて全国各地で家禽品評会が盛んに開催されたが、出品鶏は全て外国鶏によって占められていた。

しかし、一方では輸入された外国種を土台にして日本流の飼育に適した改良地方種と呼ばれる名古屋コーチン、熊本コーチン、土佐九斤、岡山エーコク、鳥取エーコク、出雲コーチン、香川エーコク、秋田種、三河種などが作出された(芝田ら, 1963)。

大正10年頃から外国鶏の流行熱がやや冷め始め、名古屋コーチンは大正8年(1919)に名古屋種と改称され、熊本コーチンは大正10年(1921)に熊本種と改称された。また、日本鶏の中でも尾長鶏は世界的にその特性が認められたことから学問的にも貴重な鶏であることが解り、大正12年(1923)に天然記念物に指定された。

昭和になると国は鶏卵増産10カ年計画に基づき、昭和2年(1927)に青森、大宮、播磨、岡崎、肥後の5種鶏場を造り各地で産卵能力検定が開始されて産卵能力の高い白色レグホーン種やロードアイランドレッド種、横斑プリマスロック種等へ傾斜して、日本鶏や改良地方種の陰がまた薄くなった。これを遺憾として日本鶏の保存と再興を考えその努力を続けてきた愛好者によって昭和12年(1937)に日本鶏保存会が結成された。これを契機に全国的に日本鶏保存団体が結成され、昭和11年(1936)から昭和18年(1943)にかけて表1のとおり日

本鶏が次々に天然記念物に指定された (芝田ら, 1963) (中山, 1974)。また, この他に県指定の天然記念物 (表 2) と天然記念物に指定されていない日本鶏 (表 3) および一度絶滅した後に復元された日本鶏 (表 4) もいる。

2. 熊本県における日本鶏保存改良の取り組み (終戦後から昭和 51 年)

1) 県内の鶏の飼育状況

昭和 20 年から 30 年代は, 食糧自給のため農村では各家庭で鶏を飼養するのが普通であった。最初は雑種の飼育から始まりだんだん白色レグホーン種, 横斑プリマスロック種, ロードアイランドレッド種などの純粋種に移り, 就巢性の強い名古屋種は母鶏孵化用として人気があった。また, チャボ, シャモ等の日本鶏を飼養する愛鶏家もいて, 農村では稲の収穫の終わった田圃に鶏の遊ぶ風景が至るところで見られた。

しかし昭和 30 年代後半から始まった日本経済の高度成長期になると, 人口の都市への流出, 畜産物需要の増大等で外国鶏と呼ばれる集団遺伝学を基に開発された卵

または肉の専用種によるコマーシャル鶏が昭和 37 年 (1962) の雛の輸入自由化に伴い, 国内の民間孵化場を系列化して大量に販売されるようになった。そのため家庭養鶏として飼われていた横斑プリマスロック種やロードアイランドレッド種, 名古屋種, 熊本種等の卵肉兼用種は全く姿を消してしまい, 農家でも卵は購入するのが普通の状態となった。

熊本には大冠チャボ, 達磨チャボ, 久連子鶏, 熊本種, 地すり, 天草大王の日本鶏がいたとされているが, 上記の時代背景の中で肉用種であった天草大王は早くも昭和初期に絶滅し, 卵肉兼用種である地すりは昭和 30 年代に絶滅, 熊本種は山鹿市の 2 戸の農家が細々と自家繁殖維持しているに過ぎない状態であった。熊本でも最も山深い五家荘で飼養されている久連子鶏も飼養者の減少と種鶏の雑種化により昭和 30 年代後半に絶滅寸前の状態になった。また, 大冠チャボは熊本市周辺, 達磨チャボは山鹿市周辺で僅かに飼養されていた。

2) 肥後ちゃぼ保存会の設立

表 1. 国指定の天然記念物日本鶏 (17 鶏種)

法定名称	一般名称	指定年月日	主なる産地
尾長鶏 土佐の尾長鶏	尾長鶏	大正 12 年 3 月 7 日 昭和 27 年 3 月 29 日	高知県 (名称変更, 特別天然記念物)
東天紅鶏	東天紅	昭和 11 年 9 月 3 日	高知県
鶉矮鶏	鶉尾	昭和 12 年 6 月 15 日	高知県
糞曳矮鶏	尾曳	昭和 12 年 6 月 15 日	高知県
声良鶏	声良	昭和 12 年 12 月 21 日	青森県, 秋田県, 岩手県
蜀鶏	唐丸	昭和 14 年 9 月 7 日	新潟県
糞曳鶏	糞曳	昭和 15 年 8 月 30 日	愛知県, 静岡県
地鶏	地鶏	昭和 16 年 1 月 27 日	三重県, 岐阜県, 高知県, 岩手県
小国鶏	小国	昭和 16 年 1 月 27 日	三重県, 京都府, 滋賀県
軍鶏	軍鶏	昭和 16 年 8 月 1 日	青森県, 秋田県, 高知県, 東京都, 千葉県, 茨城県
矮鶏	矮鶏	昭和 16 年 8 月 1 日	東京都, 千葉県, 埼玉県, 群馬県, 神奈川県, 静岡県, 大阪府, 熊本県
比内鶏	比内鶏	昭和 17 年 7 月 21 日	秋田県
烏骨鶏	烏骨鶏	昭和 17 年 7 月 21 日	三重県, 東京都, 大阪府, 広島県, 山口県, 香川県
河内奴鶏	河内奴	昭和 18 年 8 月 24 日	三重県
薩摩鶏	薩摩鶏	昭和 18 年 8 月 24 日	鹿児島県
地頭鶏	地頭鶏	昭和 18 年 8 月 24 日	鹿児島県, 宮崎県
黒柏鶏	黒柏	昭和 26 年 6 月 9 日	島根県, 山口県

表 2. 県指定天然記念物

鶏種名	産地
八木戸	三重県
金八	秋田県
久連子鶏	熊本県
チャーン	沖縄県

表 3. 天然記念物に指定されていない日本鶏

鶏種名	産地	鶏種名	産地
雁鶏	秋田県	讃岐コーチン	香川県
佐渡髭地鶏	新潟県	土佐九斤	高知県
名古屋種	愛知県	宮地鶏	高知県
三河種	愛知県	対馬鶏	長崎県
播州柏	兵庫県	熊本種	熊本県
出雲コーチン	島根県	インギー鶏	鹿児島県
徳地地鶏	山口県	沖縄髭地鶏	沖縄県

肥後ちゃばは関西以西で飼養されていた大冠チャボと大分県の臼杵産である達磨チャボが、戦後は熊本にのみ細々と残されていたことから、このチャボの2内種を「肥後ちゃば」と名付けて昭和43年(1968)に「肥後ちゃば保存会」(初代会長 根占正嘉)を設立した。その時開催した第1回品評会の出品者は6名、出品鶏は大冠桂チャボ6番(つがい)、達磨チャボ1番に過ぎなかった。

肥後ちゃばは大冠、達磨とも図1、図2のとおりトサカが大きいのが特徴で、冠の先端から肉垂の下端までの長さは通常大冠が20cm、達磨は18cmあり、最大のものでは24~25cmに達し、小さい体に大きい鶏冠を頂いて歩く姿は驚嘆に値する。しかし、鶏冠が大きいため冬の寒さで凍傷になり易く、また夏は蚊の吸血に無防備であり、特に鶏冠の大きい雄は短命である。

肥後ちゃばは、肥後ちゃば保存会設立により一時大冠チャボは順調に増殖したが、達磨チャボはなかなか増殖せず、また順調に増殖し始めていた大冠チャボも昭和40年代後半になると外国鶏と共に新しく進入してきたマレック病が愛玩鶏まで蔓延して、母鶏孵化・無ワクチンで繁殖を行っていたチャボは脚麻痺や肝臓肥大の症状で成鶏になる前にほとんどが斃死する状態になった。

3) 久連子鶏の天然記念物指定

熊本県八代郡泉村久連子産の地鶏は、古くから継承されてきた古代踊り別名平家踊り：昭和37年(1962)熊本県無形民族文化財指定、昭和53年(1978)国無形民族文化財指定(図3)を踊るときに被る花笠を飾るための

表 4. 復元された日本鶏

鶏種名	産地
地すり	熊本県
天草大王	熊本県

表 5. チャボの内種

区分	内種名
色の違い	
単色	黒、白、真黒、浅黄
複色	淡毛狸々、狸々、加比丹狸々、桂、碁石、桜碁石、三色碁石、金鈴波、銀鈴波、源平、鞍掛源平、赤笹、銀笹、白笹、金笹、黄笹
羽毛の違い	糸毛、逆毛
冠の違い	大冠、翁
尾の違い	達磨



図 1. 大冠桂チャボ

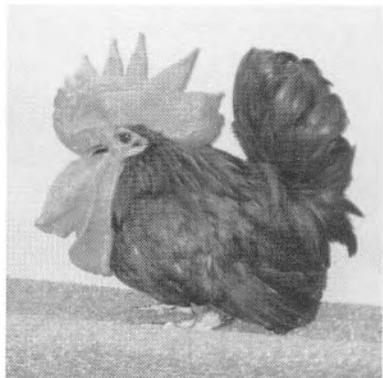


図 2. 達磨チャボ

黒い長い尾羽を採集するために 300 年以上にわたって飼いつけられてきた鶏であり、当初「日本鶏の歴史」(小穴, 1951)で半鶏(ハント)として紹介されて世間に知られるようになった。しかし「南九州の日本鶏」(根占, 1963)等の調査で半鶏ではなく久連子独特の地鶏であるとして地元の名を付けて昭和 30 年頃に「久連子鶏」と命名されたが、昭和 30 年代後半になると飼養者の減少と小国鶏との雑種化の進展で絶滅寸前になり、昭和 40 年(1965)に熊本県の天然記念物に指定された。しかし、その後昭和 50 年(1965)まで絶滅寸前の状況は一向に解消されなかった。

4) 熊本種の品種登録

熊本種は、明治 20 年(1887)から明治 40 年(1907)にかけて熊本県下益城郡小川町を中心として、在来種にエーコク種を交配し、更にバフコーチン種や白色レグホーン種、バフプリマスロック種を交配して、産卵率の向上と羽色・体型の斉一化を図り、明治 38 年(1905)に「熊本コーチン」と命名した。その後大正 10 年(1921)に「熊本種」と改称され、大正 13 年(1924)に帝国家禽研究会が第 1 次熊本種審査標準(三井, 1924)と、大正 14 年(1925)に熊本種の標準画(三井, 1925)を発表した。

また、昭和 3 年(1928)に同研究会が熊本種審査標準を改訂し、熊本種の新しい標準画(三井, 1928)も発表した。この統一した方針が出されるようになったことから急速に改良が進み、優れた卵肉兼用種として熊本県だけでなく、福岡県、大分県においても飼養されるようになった。

しかし、昭和 10 年(1935)以降、養鶏界は実用鶏時代に移ったので銘鶏から多産鶏の時代となり、卵用種の白色レグホーン種を中心に、卵肉兼用種の横斑プリマスロック種、ロードアイランドレッド種、ニューハンプシャー種が主に飼養されるようになり、熊本種は衰退した。



図 3. 古代踊り

また、戦後も新たに輸入された白色レグホーン種を中心に、卵肉兼用種の横斑プリマスロック種、ロードアイランドレッド種、ニューハンプシャー種が飼養されるようになって、熊本種は復活することなく熊本県山鹿市の農家が細々と純粋繁殖を続けていたが、昭和 40 年代後半になって近親交配による受精率低下で雛が生まれなくなった。

3. 熊本県における日本鶏保存改良の取り組み(昭和 51 年以降)

1) 県畜産研究所を中心とした熊本県産地鶏保存会改良事業の実施

昭和 50 年(1975)は高度成長がオイルショックで一段落し、鶏卵・鶏肉も有り余る程の生産増加を達成した。その頃になると鶏肉は全てブロイラーで生産するようになり、ブロイラーの育種改良が益々進んで出荷日齢が 70 日齢から 60 日齢、55 日齢へと早くなった。それに従って鶏肉は柔らかくて淡白な味になり、昔の「かしわ」の味を知っている年輩者を中心に「昔の地鶏肉」を懐かしむ声があがり始めた。このような状況のなか、熊本県畜産研究所に対して肥後ちゃぼ保存会は昭和 47 年(1972)に、久連子鶏は天然記念物を指定している県教育庁から

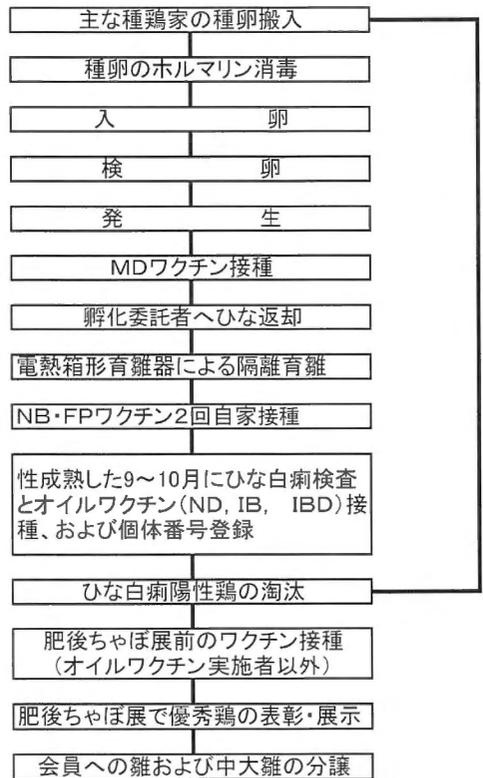


図 4. 肥後ちゃぼ保存会の孵化と衛生対策

昭和50年(1975)に、熊本種は飼育している農家から昭和51年(1976)に、それぞれ保存改良・増殖の協力依頼があった。

そこで、熊本県畜産研究所は昭和51年(1976)に熊本県産地鶏保存改良事業を予算化して、県産地鶏の保存改良とともにその肉利用についての研究を開始した。

2) 肥後ちゃぼの保存改良

熊本県畜産研究所での肥後ちゃぼ保存会と連携した肥後ちゃぼの保存改良の取り組みは図4のとおり、主な種鶏家約10名の種卵を県の孵化施設で3月から5月にかけて2週間おきに年4回から5回孵化し、マレックワクチンを接種して種鶏家に返した。また、種鶏家に対しては雛を母鶏から離して育雛するように、電熱箱型育雛器を製作普及させ、NB、IB、FP等のワクチン接種も徹底して実施した。

これらの対策によって育成率が飛躍的に向上し、増加した肥後ちゃぼは審査標準(鈴木ら、1997)に照らし合わせて種鶏を選抜することによって優秀な肥後ちゃぼが続出するようになり、熊本県ばかりでなく関東、中部、関西、中国地方でも飼われるようになった。

また、肥後ちゃぼ保存会役員と共に平成7年(1995)に訪独したのを切っ掛けに、ドイツ、ベルギー、イギリス、タイのチャボクラブとの交流が始まり、平成10年(1998)12月にベルギーに大冠桂チャボと達磨チャボをそれぞれ3番輸出した。これらがベルギーとドイツで愛好され、平成15年(2003)にドイツチャボクラブの「肥後ちゃぼ部」が設立された。

このように肥後ちゃぼの保存は肥後ちゃぼ保存会と畜産研究所が連携して行うことによって順調に発展してきたが、次のような問題点も山積している。

① 保存会会員163名中未成年者は1名に過ぎない。未成年者は準会員として会費を半額(年会費3,000円を1,500円)にして優遇しているが、最近是小中学生の加入が全くなり、会員の高齢化が進んでいる。そこで、肥後ちゃぼ保存会は保育園、幼稚園、小学校に対して肥後ちゃぼを贈呈し、将来の保存の担い手として小さいときから鶏に慣れ親しんでもらう運動を開始した。

② 女性会員は11名に過ぎない。最近ではペットブームで女性の愛犬家、愛猫家、または爬虫類愛好家などが増えているが、鶏の愛好家は極端に少なく、保存会役員の家でも奥さんは「臭い」「うるさい」「近所迷惑」「旅行ができない」等の理由で、できるなら鶏の飼育は止めて欲しいと思っているところが大半である。

③ 会員は入れ替わりが激しく、地道に育種改良を行い品評会に出品する人は理事13名と一般会員2~3名に過ぎない。その年齢別構成を見ると70代と60代の男性

が大部分である。

④ 平成14年(2002)から県養鶏施設の衛生対策上、他との交流を遮断する必要に迫られたことから、県の孵卵施設での孵化利用が困難になった。そこで民間の委託専門孵化場を利用しているが、孵化料金が安い、またマレックワクチンを接種しないことから孵化羽数の減少と育成率の低下で、飼育羽数が減少している。

⑤ 会員の主な種鶏家に対して年1回、秋に巡回して3種混合のオイルワクチンの接種を実施しているが、オイルワクチン接種前の基礎免疫付与のためにニューカッスル病と伝染性気管支炎の混合生ワクチンを共同購入して配布をしている。しかし、各自がバラバラに小羽数を何度にも分けて孵化しているので、全ての雛に確実に実施するのが困難である。

3) 久連子鶏の保存改良

雑種化の進んでいた久連子鶏は、種鶏と種卵を畜産研究所に集めて改良増殖を行った。改良した種鶏は昭和63年(1988)に設立した久連子鶏保存会へ譲渡し、品評会を毎年開催して審査員として畜産研究所と肥後ちゃぼ保存会役員が携わって選抜・改良に努めた結果、固定度の高い素晴らしい久連子鶏が飼養されるようになった(図5)。しかし、熊本県でも最も山深い山村での母鶏孵化繁殖は全くの無ワクチン飼養であり、保存会員の15名はほとんどが70歳以上である。

また、保存会は久連子地区古来の鶏で天然記念物であるという誇りから、会員は久連子地区のそれも久連子古代踊りのメンバーに限られており、地区外へ一切久連子鶏を出さないということを頑なに守っている。これまでは畜産研究所からの種鶏補給で血液更新が図られていたが、県財政の逼迫化から実養鶏として利用可能性の少ない愛玩鶏の継続的飼養は今後困難になる可能性が高い。そうすると狭い地域での限られた飼育は近親交配の弊



図5. 久連子鶏

害、および鶏病の発生等によって再び絶滅の危機に瀕することが懸念されている。

4) 熊本種の保存改良

熊本種は昭和 51 年 (1976) に近親交配のため後代が取れなくなった全羽数 (雄 1 羽と雌 3 羽) を引き取って増殖した。増殖した熊本種 (図 6) は純系として保存するとともに、熊本種を利用した高品質鶏肉を生産するための大型雄系統を造成しこれを「熊本コーチン」と命名した (松崎, 2001)。

高品質鶏肉「肉用熊本コーチン」は熊本コーチン雄と九州ロード雌の交配で生産している。なお、純系の熊本種は美しいバフ色と温和な性質であるが大型鶏 (雄 4 kg, 雌 3 kg) のため愛玩用としての飼育希望者が少なく保存会設立に至っていない。

5) 地すりの保存改良

絶滅した地すりは、黒シャモの短脚種であることが解っていたので、復元は黒シャモにチャボの短脚性の遺伝子を導入することによって比較的簡単に復元することができた (図 7)。しかし、短脚性の遺伝子は致死遺伝子を伴っているため固定できず、また致死遺伝子の影響を受けて孵化率も悪いため実養鶏としての利用には向いていない、また愛玩用としての人気もほとんど無い。

6) 天草大王の保存改良

絶滅した天草大王はランシャン種を平成 4 年 (1992) に輸入することによって復元作業が始まった。復元は文献によりランシャン種に大シャモと熊本コーチンを交配した後、1 年 1 世代の閉鎖群育種を 7 世代繰り返してはば昔どおりの天草大王を完成することができた (図 8)。

復元した天草大王雄と九州ロード雌の交配で生産する肉用の「天草大王」は平成 15 年 (2003) 6 月から販売を開始して好評を博している。

なお、復元した天草大王は超大型鶏 (雄 6 kg, 雌 5 kg) にもかかわらず愛玩鶏としての飼育希望が全国から届いている。

4. 日本鶏 (愛玩鶏) 飼育の問題点と普及推進の今後の方向

1) 日本鶏保存改良・普及の現状と問題点

日本鶏保存・改良・普及に必要な事業は各会ごとに個々別々に行われており、未だに統一されておらず、全国の保存会を統合した家禽展を開催するまでに至っていない。また、これらの会員はほとんどが高齢者であり、理科離れをした子供たちを見ると後継者難は今後更に深刻になるものと考えられる。その他、人口の都市集中による住宅事情、早朝に始まる雄の騒い声に対する周囲の非寛容性の高まり、ワクチン無接種による鶏病の発生等の問題もある。

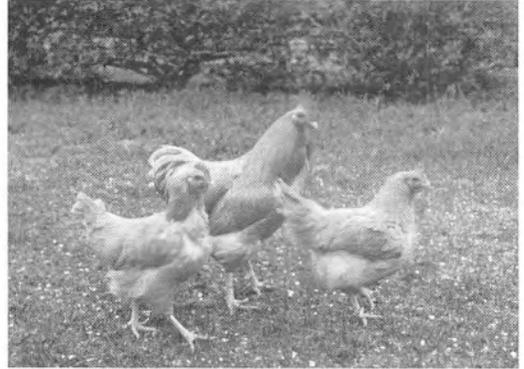


図 6. 熊本種

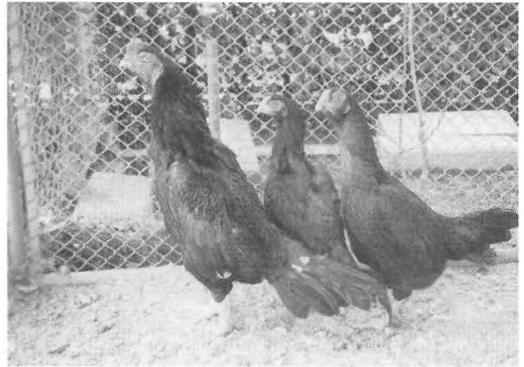


図 7. 地すり



図 8. 天草大王

(1) 日本鶏品評会の現状

日本鶏品評会（図9）は、下記のとおりである。

- ① 全国の保存会を統合した家禽展を開催するまでに至っていない。
- ② 審査員の教育と統一した資格審査がなされていない。
- ③ 番単位で展示・審査されているため、雄に比重が偏り、雌が軽視されている。
- ④ ほとんどの展示会が1日で終了し、審査と表彰が終わったら片づけるといのが一般的である。展示会が自画自賛に終わっており、鶏を一般公開しようとする姿勢が見られない。
- ⑤ 展示用のケージは直接床に置かれ、陳列はバラバラで出品者、品種などの表示がなされていない場合が多い。また、野外での展示も少なくない。
- ⑥ 賞品が華美である。

(2) 都市部での愛玩鶏飼育の現状

これまでチャボのような小型鶏は比較的都市部での飼養が多かったが、最近ではその早朝から始まる雄の謡い声に対する周囲住民からの苦情に耐えかねて飼育を止める会員が増えている。また、肥後ちゃぼ保存会員を新規に募る場合も「鶏を飼いたいけど朝早くから鳴くから飼えない」とか「鳴かないように手術できないのか」と言われることが多い。

(3) 鶏病対策

平成11年（1999）に全国の愛玩鶏や地鶏などでニューカッスル病が散発し愛玩鶏などの少羽数飼育鶏の衛生対策が問題になっている。

一般に愛玩鶏飼育者は、鶏痘ワクチン（FP）は要指示薬ではなく入手が容易なこと、価格が1,000羽用でも安いこと、接種しないと夏場は必ず発病して愛玩鶏としては致命傷の後遺症が残る等の理由でよく使われているが、

他のワクチンはほとんど使っていないのが実情である。

鶏病研究会は、昨年（2003）社団法人動物用生化学的製剤協会理事長と農林水産省畜産部衛生課長に対して「小規模養鶏に対応した少羽数用（100ドース）のニューカッスル病ワクチン（生、油性アジュバント不活化）の製造販売が安定的に行われるよう」要望書を提出した。これが実現すれば法定伝染病であるNDに対しては実施率が高まるものと期待される。

しかし、法定伝染病ではないが被害の大きいマレック病は、ワクチンの価格が高く液体窒素保存で取り扱いも簡単ではないことから、母鶏孵化や自家用の小型孵卵器で孵化される愛玩鶏についてはほとんどが実施されていない。また、食品衛生上神経を尖らせているサルモネラや最近発生した鳥インフルエンザに対しては全く無防備である。

愛玩鶏や地鶏は、ほぼ全てが簡単な平飼い鶏舎や放し飼いで飼養されており、雀等の野鳥との接触が多く、また品評会や即売会等で愛鶏家と愛鶏家、愛鶏家と鶏、鶏と鶏の交流が盛んである。このような愛玩鶏が鶏病発生源とならないよう、各日本鶏保存団体は地域の家畜保健衛生所と連携して共同予防接種を実施するとともに、飼育者自信の防疫に対する啓蒙など、積極的な対応を講じる必要がある。

2) ドイツでの家禽普及の取り組み

(1) 家禽展の現状

肥後ちゃぼ保存会役員と共に平成7年（1995）12月にドイツのニュルンベルグで開催された「第77回ドイツ純血種家禽展」（図10）に参加した。出品羽数は鶏30,000羽、鳩35,000羽、水禽3,000羽、七面鳥・ホロホロ鳥2,000羽、計70,000羽が国際見本市会場の12ホールを使って、見やすい高さに調節した台の上に家禽別、品種別、雄雌別に1羽ずつケージに整然と陳列されていた。



図9. 日本鶏品評会



図10. ドイツ家禽展

開催日程は5日間(1日目と2日目が審査, 3日目から5日目が一般公開)で, 審査は3年間の教育訓練を経た後, 筆記試験と口頭試験に合格した審査員により統一された審査基準によって審査され, その結果を品種, 出品者, 売却希望価格, 採点, 賞が記録された電話帳ほど厚い記録が一晩で印刷製本されて販売されていた。また, 一般公開の入場料は有料(800円程度)にもかかわらず老若男女が3日間で5万人を数えるそうである。

(2) 都市部での鶏飼育の現状

平成7年(1997)にドイツの家禽展見学に行った時, ニュルンベルグの都市部での鶏飼育現況を見聞した。ドイツでは都市部で鶏を飼えない人のために州が土地を貸与して家禽クラブが運営している集団飼育場(コロニー)が都市近郊にあり, ニュルンベルグの場合1人当たり600m²を, 主に年金者が安い価格で借り受けて, 鶏舎を建設して鶏や鳩を飼って楽しんでいた。鶏舎は休息室も併設し, 宿泊は禁止されているがテーブルと椅子や机が備え付けてあり, ゆっくりとコーヒーを飲みながら鶏好き同士で談笑している姿が見られた。また, コロニー全体はフェンスで囲まれており外敵対策は万全であり, その中には集会場を兼ねたレストランも併設されていた。

このようなコロニーはドイツ以上に住宅事情の悪い日本でこそ, 必要ではないかと思われる。そのためには市町村の遊閑地の貸与等地方公共団体の援助なしでは実現困難であろう。

3) 日本鶏普及推進の今後の方向

全国段階としては, 全ての日本鶏保存会を統轄する組織が, 日本鶏審査標準を基にした全国共通の審査がなされるよう審査員の養成と資格審査を行う必要がある。また, 新しく作出した品種や内種を認定するための認定委員会の設立, 並びに審査標準作成委員による審査標準の見直しと追加も必要である。

実は, この原稿を執筆中に大分県のチャボが鳥インフルエンザに感染して死亡したため, 鶏飼育を止める愛鶏家や学校が続出し, 日本鶏保存推進としては逆風を受けた格好になった。

そこで, 各保存会としては, 鳥インフルエンザも含めた鶏病に感染しない清潔・安全で衛生的な愛玩鶏の飼育方法(ワクチン接種の励行, 履き物の消毒, 野鳥の鶏舎内浸入防止, 鶏舎の定期的な清掃消毒, 蚊・蠅・鼠の駆除など)を会員に対して実行させる必要がある。

また, 鶏品評会は清潔・安全・衛生に万全を期しながら室内で品種と雌雄別に分けて整然と陳列し, 少なくとも2日間は開催する必要がある。また, 出品者だけのイベントに終始せず, 1日は鶏飼育者以外の人にも広く公開することを前提に, 品種名・内種名, 出品者名, 賞・等級などを表示し, 初心者への飼育相談の場を開設して日本鶏の美しさと飼育の楽しさを普及啓蒙する。

このことにより鶏飼育に対する「臭い」「うるさい」「近所迷惑」, また「年寄り男性の趣味」という印象を払拭して, 女性や子供にも人気のある趣味としての地位を確立させたいものです。

引用文献

- 小穴 彪. 日本鶏の歴史, 266-269. 日本鶏研究社. 東京. 1951.
- 黒田長久・山口健児・田名部雄一・一戸健司. 鶏の歴史・文化. 天然記念物日 本鶏, 19-28. 教育社. 東京. 1987
- 佐竹満治. 全国日本鶏保存団体名簿. THE POULTRY, VOL41, 33-40頁. 静岡. 2003.
- 芝田清吾・三浦道雄・鎌田浩一. 養鶏大辞典, 68-128. 養鶏の日本社. 名古屋. 1963.
- 鈴木喜一ら日本鶏審査標準作成委員会委員. 大冠桂チャボ. 日本鶏審査標準, 174-177. 全国日本鶏保存会. 神奈川. 1997
- 鈴木喜一ら日本鶏審査標準作成委員会委員. 達磨チャボ. 日本鶏審査標準, 178-181. 全国日本鶏保存会. 神奈川. 1997
- 松崎正治. 熊本県産地鶏の保存改良とその利用技術の開発. 日本家禽学会, 38:1-3. 2001.
- 根占正嘉. 南九州の日本鶏について. 著者自刊. 1963.
- 山口 潔. 日本鶏の起源. 原色日本鶏, 31-39. ペットライフ社. 東京. 1974.